

1. シンポジウム企画委員会のシンポジウム(1963.10~2023.3)

開催年月	開催場所	通し番号	シンポジウム企画名
1963.10	小樽市	1	漁業資源研究の現状と問題点
		2	浅海増殖研究の現状と問題点
		3	魚肉冷凍中における肉質の変化
1964.04	東水大	4	水産脂質の代謝
		5	親魚の育成
		6	海洋における光学的現象と漁業
10	水大校	7	食品添加物と水産加工
		8	養魚施設
1965.04	東水大	9	漁業資源における再生産機構
		10	農業と水産業
		11	音響利用漁業に関するシンポジウム
10	東海大	12	水産動物筋肉におけるリン酸代謝に関する諸問題
		13	水産生物の育種に関するシンポジウム
1966.04	東水大	14	マクロ漁業に関するシンポジウム
		15	組織学的に見た水産食品
		16	養殖と餌料に関するシンポジウム
10	瀬戸内海	17	魚類の感覚とその水産への応用
1967.04	東水大	18	人工魚礁とその効果に関するシンポジウム
		19	魚類色素と応用上の諸問題
		20	魚類の細菌性疾病
		21	魚介類の鮮度判定法の展望と問題点
1968.04	日大農獣	22	海洋微生物
		23	水産増殖におけるビタミン利用
		24	タイ類の増養殖
		25	食品の香味
1969.04	東京家政	26	魚介類の低温保蔵と微生物
		27	魚類の健康診断技法
10	東北大農	28	魚類の成長
		29	魚類の消化酵素
1970.04	東海区水	30	水産脂質の酸化
		31	水中動物の生理生態に関する無線測定法
10	三重水大	32	定置網漁業に関する研究の現状と問題点
		33	魚肉たん白質の研究・実験法
1971.04	東水大	34	水産物のエキス
		35	硬組織とその年令査定形質の形成機構
10	北大水	36	スケイトウタラの漁業とその資源
		37	冷凍すり身における魚肉筋タンパクの挙動
1972.04	日大農獣	38	火光利用の漁業
		39	水産食品の食中毒汚染
10	高知大文	40	魚類の栄養
		41	甲殻類の増養殖, とくに養成に関する諸問題
		42	水圏の富栄養化と水産増養殖
1973.04	東水大	43	のりの病気
		44	水産食品と水分
		45	公害問題と水産研究
10	鹿大教養	46	対馬暖流域の海洋構造とその漁業
		47	重要魚種の利用とその品質規定
1974.04	東水大	48	種苗生産における親魚と産卵に関する諸問題
		49	魚類寄生アニサキス幼虫
11	京都商工	50	魚類の種族判別への生化学的手法の応用
		51	稚魚の摂餌と発育
		52	海面埋め立ての沿岸環境および漁業生産への影響
1975.04	東水大	53	南方カツオ漁業に関する諸問題
		54	海洋環境における微生物の生態
10	長大水	55	重金属・農薬汚染の水産への影響
		56	肉の特性から見た白身の魚と赤身の魚
		57	種苗放流効果と放流漁場の諸問題
1976.04	日大農獣	58	水産資源の有効利用について
		59	水産動物ホルモン
		60	石油汚染とその水産生物への影響
10	水大校	61	生態学における測定
		62	PCBと海洋生物
1977.04	東水大	63	イワシ・アジ・サバまき網漁業に関する諸問題
		64	水産動物肉のタンパク質
		65	浅海養殖場の自家汚染の問題とその対策 - 漁場老化の機構を中心として -
10	東北大農	66	増殖技術の科学的基礎及び理論
		67	魚類の脂質要求と餌料への油脂
1978.04	東水大	68	養魚における呼吸と循環の諸問題
		69	水産動物のカロチノイド
10	東海大海	70	水族の遺伝・育種の現状と将来
		71	海洋生化学資源の開発
1979.04	東水大	72	漁具の選択作用
		73	水産食品の鑑定
		74	水域の浄化に関する諸問題
10	北大水	75	浅海増養殖漁業生産の体系化 - ホタテガイをモデルとして -
1980.04	日大農獣	76	淡水養魚における用水の有効利用
		77	水産加工食品の保全に関する諸問題
		78	赤潮の発生機構と対策
10	九大農	79	新しい生活環境づくり藻場・海中林
		80	多獲性赤身魚の有効利用
1981.04	東水大	81	かご漁業に関する諸問題
		82	魚類の化学感覚と摂餌促進物質
10	三重水大	83	活魚輸送の現状と諸問題
		84	海洋動物の非グリセリド脂質 - スクвален, グリセリルエーテル, ワックスを中心として -
1982.04	東水大	85	水産動物における成熟・産卵の制御
		86	有毒・有害プランクトンの作用と化学的研究の現状
		87	水圏の富栄養化と生物指標
10	広大生物	88	シオミズツボムシの大量培養
		89	海藻の生化学と利用
1983.04	東水大	90	資源の解析・評価の方法の現状と問題点
		91	魚類の物質代謝
		92	漁業環境アセスメント
10	京大会館	93	資源生物としてのサメ・エイ類
		94	魚肉ねり製品に関する研究と技術

1984.04	日大農獣	95	水域別漁業環境問題とその対策
		96	人工魚礁の諸問題
10	東北大農	97	水産物と栄養
		98	魚類の栄養と餌料
		99	秋サケの資源と利用
1985.04	東水大	100	貝類毒化原因プランクトンの生物学と生態学
		101	水産動物の筋肉脂質
10	鹿水大	102	環境汚染物質の沿岸生態系への影響
		103	マダイの資源培養技術
		104	魚類の品質判定と貯蔵法の進歩
1986.04	東水大	105	水産増殖と微生物
		106	魚のスーパーチリンターその理論と実際ー
10	高知大文	107	漁業から見た閉鎖性海域の窒素・リン規制
		108	解散付着生物と水産増養殖
		109	海産有用生理活性物質
1987.04	東水大	110	資源評価のための数値解析
		111	水産食品のテクスチャー
10	北大水	112	下水処理水の漁業環境への影響
		113	水産動物の日周活動
		114	フグ毒研究の最近の進歩
1988.04	日大農獣	115	エビ・カニ類の種苗生産
		116	魚介類のエキス成分
10	東海大海	117	漁具に対する魚群行動の研究手法の現状と問題点
		118	水産物において
1989.04	東水大	119	魚介の生息環境と着臭
		120	水産増養殖と染色体操作
10	宮崎大農	121	水産動物の筋肉及び構成タンパク質の比較生化学
		122	養殖魚の価格と品質の維持
		123	海洋微生物の生産する生理活性物質の基礎と応用
1990.04	東水大	124	テレメトリー利用による水棲動物の行動解析
		125	魚肉の栄養成分とその利用
11	近大農	126	魚類の初期発育過程
		127	貯蔵及び加工における魚肉タンパク質の変性と制御
1991.04	東水大	128	海産魚の成熟・産卵リズム
		129	魚類における死後硬直の生化学と応用上の諸問題
10	北里大水	130	食用藻類の栽培技術と進歩
		131	海洋生理活性物質研究の基盤技術
1992.04	日大農獣	132	東南アジアにおける養殖の現状と将来展望
10	水大校	133	微細藻類の多目的利用の現状と将来展望
		134	放流魚の健苗性とその育成技術
		135	海洋生物カロテノイドの代謝と生物活性
1993.04	東水大	136	水産脂質の特性と生物活性
10	長崎大	137	水産資源解析の課題と展望ー統計モデルと資源特性値の推定ー
		138	赤潮藻の微生物学的防除
		139	魚類の初期減耗研究の課題と方法
1994.04	東水大	140	養魚餌料用代替タンパク質利用の現状と課題
		141	水産資源の音響調査手法の現状と展望
10	三重大生	142	魚介類に対する摂餌刺激物質
		143	水産増養殖における生態防御機構研究の現状と将来
		144	有用海産魚介類の種苗生産技術の展開
1995.04	東水大	145	わが国の漁業における混獲の実態とその対策
9	京大総合	146	魚介類の鮮度判定と品質保持
		147	ウナギの初期発生活史と種苗清算の展望
		148	魚類の行動生理学と漁獲技術
1996.04	日大生資	149	イルカ類の感覚と行動
10	九大法文	150	種苗放流をめぐる諸問題
		151	トラフグの漁業と資源管理
		152	ヒラメの生物学ーその基礎と応用ー
1997.04	東水大	153	有用海藻類のバイオテクノロジー
		154	沿岸生態系における漁業生産システムの解析
		155	魚介類の細胞外マトリックス
9	広大総合	156	水産動物の成長解析
		157	砂浜海岸における仔稚魚の生物学
		158	水棲動物の呼吸と環境
1998.04	東水大	159	アオサ類の繁殖生態と環境修復への利用
		160	マイワシの資源変動と生態変化
		161	水産生物の形質発現と形質評価
9	北大水	162	資源・漁業の管理技術の現状と課題
		163	磯焼け現象: その機構と藻場修復
		164	イカ漁業の現状と将来展望
1999.04	東水大	165	アマリ研究の現状
		166	漁業と資源の情報学
		167	東シナ海及び黄海の生物資源: 現状と有効利用の展望
		168	魚介類筋肉タンパク質の構造と機能
9	東北大農	169	水産物健康性機能とその利用
		170	国連海洋法下における水産資源の直接推定法の意義と課題
		171	魚類の配偶子形成における内分泌機構
2000.04	東水大	172	漁具の選択特性の評価と資源管理
		173	ホンダワラ類の繁殖・生態と藻場造成技術
		174	魚類の自発摂餌ーその基礎と応用ー
		175	HACCPと水産物
9	福井県大	176	マアナゴの資源生態と漁業
		177	選択的漁獲技術開発のための漁獲過程に関する研究の課題と今後の展望
		178	スズキをモデルとした水産資源生物の新展開
2001.04	日大生資	179	二酸化炭素の海洋隔離技術と生物への影響
		180	魚肉のゲル形成における構成タンパク質の役割
		181	オゴノリの研究の現状と新資源としての展望
		182	漁船工学の現状と展望
2002.04	近大農	183	魚類の免疫系
		184	サバ型魚類の資源・増殖生物学
		185	水産生物の性発現と行動生態
		186	海藻食品の品質保持と加工・流通に関する課題
2003.04	東水大	187	東シナ海におけるマアジの産卵場形成と沿岸への加入機構
		188	養殖魚の健全性に及ぼす微量栄養素
		189	地域特産資源としてのエビ・カニ類の多様性と重要性
2004.04	鹿大郡元	190	ベントス研究の漁業生物学的研究
		191	水産物の品質・鮮度と高度保持機構
		192	水産機能性脂質ー給源・機能・利用

2005.04	海洋大	193	魚肉のゲル形成に伴う水の存在状態と物性の変化
		194	レジームシフトと水産資源
		195	フリーその資源・生産・消費
		196	クラゲ類の大量発生とそれらを巡る生態学・生化学・利用学
		197	近縁魚介藻類の種判別および漁獲地域判別技術
2006.04	高知大朝倉	198	海洋深層水の特性と利用
		199	水生動物の行動と漁具の運動解析におけるテレメトリー手法の現状と展開
		200	音響資源調査の新技術—計量ソナー研究の現状と展望—
		201	モデル水産植物研究の現状と課題
2007.04	海洋大	202	微生物制御の最前線：食の安全から環境保全まで
		203	森、里、川と沿岸域の生物生産
		204	水圏生物の色素—嗜好性と機能性—
		205	海洋資源生物研究におけるネット採集具開発の現状と課題
2007.09	北大水	206	水産動物の生態研究における安定同位体比分析の現状と展望
		207	水産学と地域連携：道南における新海洋産業網の形成にむけて（公開シンポジウム）
		208	磯焼けの科学と修復技術（公開シンポジウム）
2008.04	東海大海	209	アサリ資源の増殖を目指した流域圏の環境管理
		210	沿岸域におけるアユの生理・生態特性の解明
		211	海洋高次捕食者の保全と持続的利用—トップダウンアプローチ：マグロ類、サメ類、イルカ類を例として—
		212	漁業における灯光利用の現状と課題—灯光で魚を誘い獲る技術・制度の再構築に向けて—
2009.03	海洋大	213	急潮の発生・伝播機構と定置網の被害防除
		214	魚類の生殖機構—基礎と応用—
		215	魚介類のアレルゲン研究の最前線
		216	漁獲ストレス軽減によるマグロ高品質化
10	北里大	217	水産とIT～ITで水産を元気にする～
2010.03	日大	218	クロマグロ養殖業—技術開発と事業展開・展望—
		219	魚介類生産の場としての浅海域の生態系サービス
		220	水産資源の有効利用とゼロエミッション
		221	カワウによる漁業被害防除の開発
9	京大総合	222	日本産水産物の高付加価値化～サンマのグローバルマーケティングの取組みに向けて～
		223	アンチエイジングを目指した水産物の利用
		224	微生物ゲノムが拓く水産の新たな潮流
2011.03	海洋大	225	水産健康機能成分の機能解析と利用技術開発—有効利用と次なる展開—
		226	サケ輸出に求められる技術開発
		227	21世紀のSmart Fisheryを目指して
		228	水産育種の現状とゲノム情報利用の将来展望
		229	漁獲物の蓄養による品質向上技術
		230	飼育実験とバイオロギング研究—漁業資源の繁殖特性研究の新たな展開
2011.09	長崎大	228*	水産育種の現状とゲノム情報利用の将来展望
		229*	漁獲物の蓄養による品質向上技術
		231	ブグ研究とトラフグ生産技術開発の最前線
		232	沿岸環境の保全と修復における微生物学的側面—有明海再生を目指して—
2012.03	海洋大	225*	水産物由来健康機能成分の機能解析と利用技術開発—有効利用と次なる展開—
		227*	21世紀のSmart Fisheryを目指して
		233	水産「プロバイオティクス」の創成
		234	通電加熱による食品の加熱と殺菌技術の高度化
2012.09	水大校	230*	漁業資源の繁殖特性研究—飼育実験とバイオロギングによる新たな展開—
		235	スケトウダラが産まれてから食卓にあがるまで：生態—社会系とその管理
		236	沿岸資源の増殖・管理と分子生物学的手法によるモニタリング
2013.03	海洋大	237	メチル水銀のリスクと魚食のベネフィット
		238	水産における光利用技術と基礎研究の動向
2013.09	三重大	239	真珠研究の最前線—真珠養殖技術の革新を目指して—
		240	アオリイカの生物学と漁業技術の進歩
2014.03	北大水	241	スサビノリの持続的生産への挑戦
		242	ハタ科魚類における繁殖の生理生態と種苗生産
2014.09	九大農	243	魚類の初期生活史研究の最前線
		244	魚類における新しいタンパク質Calycin研究の新展開：α1-酸性糖タンパク質、フグ毒結合タンパク質、ウナギ蛍光タンパク質
2015.03	海洋大	245	魚介類内性プロテアーゼ—基礎から水産食品加工への応用まで—
		246	魚類行動生理学の基礎と水産研究への応用
2015.09	東北大農	247	東日本大震災からの復興・再生に向けた新たな水産業の創成につながる新技術開発
2016.03	海洋大	248	魚類人工種苗の形態異常：これまでとこれから
		249	地下水・湧水を介した陸—海のつながり：沿岸域における水産資源の持続的利用と地域社会
		250	三陸沿岸における水産業の復興と新たな水産人材育成—3大学連携三陸水産研究教育拠点形成事業の成果と今後の展望—
		251	水産物に関する冷凍研究の課題と展望
2016.09	近大農	252	新たな食毒リスク管理措置の導入に向けた研究
2017.3	海洋大	253	森川里海のつながりを科学で説明できるか？
		254	福島の水産域における放射能汚染と魚類に及ぼす影響：これまでとこれから
		255	水圏生物タンパク質科学の新展開
2018.03	海洋大	256	マアノゴ生活史研究の最前線と資源管理
		257	環境変動下におけるサケの持続可能な資源管理(Sustainable management of chum salmon in changing environments)
2018.09	広大	258	魚類の性決定・性分化・性転換—これまでとこれから—
2019.03	海洋大	259	イカナゴを巡る諸問題と生物学
2020.03	海洋大*	260	発展する水産・海洋ゲノムサイエンス
2021.03	海洋大(オンライン)	261	多元素同位体を用いた魚類の移動履歴推定—最新の技術と応用—
		262	今日の水産加工と魚肉タンパク質研究の課題
		263	海藻とウニの生産に向けた新たな研究展開
2022.03	日大(オンライン)	264	水産物品質の非破壊計測技術
2022.09	宮崎大農	265	船底や漁網に使用する防汚剤汚染は終わったのか？
2023.03	海洋大	266	水産における昆虫の飼料利用の現在と未来

2. シンポジウム企画委員会のミニシンポジウム(1994.4～2023.3)

開催年月	開催場所	通し番号	ミニシンポジウム企画名
1994.04	東水大	1	アカイカ流し網代替漁法の展望
		2	魚介類筋肉タンパク質の構造と機能の解析
		3	貝毒対策の問題点
		4	漁獲技術研究における国際協力の事例と将来展望
		5	ガス置換包装における水産物の品質保持
1994.10	三重大生	6	コンブ目植物の生態と増養殖技術
		7	熊野灘漁業の現状と将来
1995.04	東水大	8	国内産アワビ・トコブシの安全性
9	京大総合	9	水産生物におけるD型アミノ酸の分析法、分布及び生理機能
		10	魚類の筋肉プロテアーゼ—基礎と応用—
		11	海洋生物の回遊環境履歴解析
		12	海洋生命科学における糖鎖生物学・工学
1996.04	日大生資	13	魚類のゲノム解析とその必要性

		14	相模湾における漁業と海域利用の将来展望
		15	フグの毒性に関する緊急課題
10	九大法文	16	魚介類の培養栽培を活用した研究
		17	魚類の聴覚特性—内耳と側線—
1997.09	広大総合	18	沿岸漁業における漁具の選択性Ⅰ—網漁具—
1998.04	東水大	19	沿岸漁業における漁具の選択性Ⅱ—釣・陥穿漁具—
		20	水産生物における内分泌擾乱物質
1999.04	東水大	21	薬物速度論的解析における水産物医薬品の体内動態—投薬法の評価に関連して—
		22	漁具の流体力学的側面Ⅰ—基礎的研究の現状と課題—
9	東北大農	23	これからの栽培漁業研究—今、何が問題か?—
2000.04	東水大	24	漁具の流体力学的側面Ⅱ—応用的研究—
		25	魚肉軟化とコラーゲン分解
		26	超小型記録装置による魚類の遊泳行動研究—現状と展望—
9	福井県大	27	水産ゼロエミッションの現状と課題
2001.04	日生大	28	カタクチイワシ資源の今を考える
		29	ワムシ大量培養法の進展とその現状
2002.04	近大農	30	水生無脊椎動物をめぐる最近のトピックス
		31	マングローブ沿岸生態系における地球温暖化ガス収支
		32	フグの毒蓄積機能—フグはなぜ毒をもつのか—
2003.04	東水大	33	海洋動物の刺毒に関する最近の知見
2004.04	鹿大郡元	34	頭足類学の胎動—分子解析から資源変動まで—
		35	干拓域の一次生産者—その生態と機能—
		36	水棲動物のリポタンパク質—ホスオリバーゼA2・レプチン受容体
2005.04	海洋大	37	ヒラメ・カレイの裏表—異体類の左右性発現の機序とその異常について—
2006.04	高知大朝倉	38	ゴーストフィッシング研究の現状と方向性
		39	クロマグロの初期発育と種苗生産—現状と展望—
		40	魚類の発生工学の現状と展望
2007.04	海洋大	41	海藻類の単細胞化とその産業利用
		42	水産分野における知的財産に関する問題(公開ミニシンポジウム)
2007.09	北大水	43	水産科学に携わる女性研究者の現状と展望
2008.04	東海大海	44	多獲性浮魚を対象とする漁業生産システムの再構築
		45	熱帯/亜熱帯産有毒魚類と底生性有毒微生物に関する緊急の課題
		46	開放的な砂浜海岸における水産生物と環境—吹上浜をモデルとした生態研究—
		47	次世代型魚類養殖給餌システム開発の現状と展望
2009.03	海洋大	48	水産実験所から始まる新しい水産研究と教育
		49	ノリ病気研究の現状と展望
10	北里大	50	宮古湾をモデルとした資源の増殖と管理の試み—栽培漁業の基礎研究から効果の実証まで—
		51	板鰐類資源の保全と管理における現状と課題
		52	アユ釣りの科学—研究者と釣り人がアユを語る—
2010.03	日大	53	沿岸域の生物に関する予測評価
		54	深層水の新たな展開
9	京大総合	55	海洋高次捕食者と漁業との競合問題—食害対策における情報の共有化—
		56	瀬戸内海の栄養塩不足とその対策—河川水利用技術の開発—
		57	海洋動物の群れを考える—社会性・生態・遺伝子の視座から—
		58	沿岸域における有害有毒プランクトンの発生メカニズムと予知
2011.03	海洋大	59	イカ類資源の世界的需供の変化と国内産業の展開
2011.09	長崎大	60	環東シナ海研究のこれまでとこれから—国境を越えた海洋研究ネットワークの充実に向けて
2012.03	海洋大	61	水産資源管理に向けた魚類の行動研究
2012.09	水大校	62	低魚粉飼料の栄養評価と飼育魚の健康評価
		63	養殖業の未来—生産から利用・流通・市場まで—
2013.03	海洋大	64	水圏におけるハイブリッドとクローン—生態系における役割と応用可能性—
		65	小型底びき網漁業における省エネ・省力化を目指した技術開発
2013.09	三重大	66	海女漁業の現状と将来展望
		67	選択漁獲は古いのか?!—Science論文の意義を探る
		68	志摩半島周辺海域における二枚貝類養殖の現状と将来展望
2014.03	北大水	69	水産物の生産・加工・流通段階を保障するリスク管理研究の最新動向
		70	データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築—魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む—
		71	微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望
2014.09	九大農	72	頭足類学の創成—水産学における応用の基礎として—
		73	水産物におけるゲノム編集の現状と展望
		74	クルマエビ栽培漁業の今後を考える
2015.03	海洋大	75	若手が拓く水産学研究:国際舞台で活躍する若手研究者たち
		76	調査捕鯨と国際司法裁判所(ICJ)判決
2015.09	東北大農	77	フグ食の安全性確保—日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し
		78	水産分野のキャリア教育—高校・大学・産業界における課題と期待—
2016.03	海洋大	79	エリアケアパブリティープローチによる漁村開発
		80	漁業資源の今とこれから
		81	水産資源の持続的利用と認証制度—東京オリンピックで日本の水産物を提供できるのか?—
2016.09	近大農	82	ICTの水産業への導入:最前線と今後の課題
		83	水産分野におけるタンパク質研究の現状と展望
		84	日本の野生メダカの保全と新たな課題—個体群減少と遺伝的攪乱—
		85	水産教育の現場から次世代育成を考える
2017.03	海洋大	86	水産資源データ解析と予測モデル
		87	サバ—資源・養殖・加工・ブランド化をシームレスに繋ぐ若手研究者の集い—
		88	寄生虫症を宿主の視点から考える
		89	実験・実習再考—水産化学・食品系で扱うべき内容
2018.03	海洋大	90	三陸サケ回帰率向上のための放流技術の開発
		91	タイラギ種苗生産技術の最新動向と養殖産業の創出に向けて
2018.09	広大	92	選抜育種の積極的な導入に向けて—「経験則」から「データによる予測」へ
		93	干潟漁場の評価のための生物多様性の研究
		94	持続可能な漁業産業を支援するためのICTの活用
2019.03	海洋大	95	同一魚種サクラマスとヤマメ(<i>Oncorhynchus masou masou</i>)の資源管理を包括的に考える
2019.09	福井県大	96	水産物の呈味特性研究の新展開
		97	魚類における不妊化研究の最前線
2020.03	海洋大*	98	魚介類タンパク質・酵素の産業利用とさらなる理解に向けて
		99	データ不足下での資源評価・管理手法
		100	水産・海洋系高等学校の水産科教員不足をめぐる現状、問題点と解決策
2021.09	北大水*	101	タコを考える—その生物像から工学応用まで—
2022.03	日大(オンライン)	102	フグ毒と麻痺性貝毒の産生と動態に関する研究の現状と展望
2022.09	宮崎大農	103	地域共創による水産業の活性化
		104	アオリイカ漁業の現状と将来—漁業者との協働研究—
2023.03	海洋大	105	知床周辺海域のホットスポット形成:海洋環境から高次捕食者まで

*:「みなし開催」となったシンポジウムの開催による